



祭壇



追悼の辞 総理大臣（橋慶一郎
内閣官房副長官代読）

（第一面からつづく）

栄は、戦没者の皆様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであります。先の大戦から、80年が経ちました。今では戦争を知らない世代が大多数となりました。戦争の惨禍を決して繰り返さない。進む道を二度と間違えない。先の大戦の記憶を世代を超えて継承し、この決然たる誓いを今後も貫いてまいります。歴史の反省と教訓を深く胸に刻み、未だ争いが絶えることのない世界にあって、今を生きる世代とこれからの世代のために、より良い未来を切り拓きます。終わりに、戦没者の御霊の安らかならんことを、ご遺族の皆様には、ご多幸を、心よりお祈りし、追悼の言葉といたします。

令和7年10月17日
内閣総理大臣 石破 茂
（代読 内閣官房副長官 橋 慶一郎）



黙とう



国歌斉唱



献茶の儀 表千家流 近藤佐季子先生



参列部隊の拝礼



音羽ゆりかご会



上皇陛下御製奉誦と舞踊 竹内一香・山村龍雲・藤間幸嘉先生



昭和天皇御製奉誦と舞踊 吉永龍奏・榊原千奈緒先生



献花に向かうフランス武官



献花に向かう遺族会・戦友会代表



拝礼に向かう両殿下



東京都隊友会の支援者



陸上自衛隊中央音楽隊



一般焼香

慰霊祭式次第	
1	秋篠宮皇嗣同妃両殿下御臨場
2	開式の辞
3	国歌斉唱
4	黙とう
5	献茶の儀
6	式辞
7	昭和天皇御製奉誦及び舞踊 上皇陛下御製奉誦及び舞踊
8	童謡唱歌奉唱
9	追悼の辞
10	秋篠宮皇嗣同妃両殿下御拝礼 一同拝礼
11	秋篠宮皇嗣同妃両殿下御退場
12	献花
13	閉式の辞
14	一般焼香

※1 黙とうは陸海空自衛隊参列部隊の敬礼動作に合わせて行う
※2 全般の奏楽は陸上自衛隊中央音楽隊による



甲飛喇叭隊 8月3日



水交会 7月17日



喇叭保存会 8月10日



普明会教団 8月4日



京都府遺族会 1 8月14日



宮崎県遺族連合会 8月14日



京都府遺族会 3 8月14日



京都府遺族会 2 8月14日



佐賀県遺族会 8月14日



広島県遺族会 8月14日



鹿児島県遺族連合会 2 8月14日



鹿児島県遺族連合会 1 8月14日

各団体の慰霊参拝



大分県遺族会連合会 8月14日



青森県遺族会連合会 8月14日



福岡県遺族連合会 2 8月14日



福岡県遺族連合会 1 8月14日

各団体の慰霊参拝



トイレ清掃奉仕会 8月17日



喇叭伝承会 8月17日



千代田区海洋少年団 9月6日



櫻晴れ清掃奉仕会 8月31日

懸賞小論文

【佳作】 未来へ向けた戦没者慰霊

大学生 21歳 坂巻 莉子

私は最近の人々は戦争や慰霊について無関心であるのではないかと実感しています。そう思う理由はいくつかありますが、大きな原因は戦後から現在までかなりの時間が経っていることや自分を最優先とする人が多くなったことからではないかと思っています。今や戦争が起きたことを知らないという世代が誕生しているのです。

私は大学のゼミのフィールドワークとして初めて靖国神社及び千鳥ヶ淵戦没者墓苑へ参詣しました。もしこのゼミに参加していなければ、靖国神社や英霊の存在すら知らないまま生涯を終えていたかもしれません。なのでこのような機会に立ち会うことができて大変嬉しく思っています。そこで私は『英霊の言乃葉』を読み、胸が締め付けられました。「心配するな」「後悔はない」といった家族を想う言葉や護国のために身を捧げる覚悟を決めた言葉が、多くの遺書に綴られていたことを覚えています。それと同時に、本当に戦争が起きて多くの先人が亡くなったという事実を肌で感じました。また、英霊の命が無駄にならないよう真面目に生きなければと改めて思いました。このことを通して、こんなことがあったのだなとか辛かっただろうなと思うだけに止まらず、これを継承することがこれからの日本にとって重要であると気づきました。

冒頭で述べた通り、若い世代は戦争や慰霊、すなわち国に対して関心がない。なぜ関心を持たなくてはならないのか？なぜ歴史を学ばなければならぬのか？私たちは戦争体験もなければ語れることもない。それなのにどのように次の世代へ受け継げば良いのかと思う人もいるかもしれません。現在を生きている私たちがご飯を食べ学校へ行つて講義を受ける

ことができるのは過去があるからです。このことを忘れかけている人がいるのではないのでしょうか。私もその内の1人でした。しかし今回この論文を書くにあたって国と向き合つて考える機会をもらい学ぶことができました。私は過去の多くの英霊により今があることを決して忘れてはならないと思うのです。

次の世代へ慰霊を受け継ぐためにはまず、私たちは戦争を知る方々からの記憶を受け継がなくてはなりません。しかし戦争を経験し語り継げる方が少なくなっていることに危機感を抱いています。それに対して私ができることは戦没者に感謝し、自国に愛情を持つて生きることが英霊の皆様に見える恩返しなのではないかと思いました。そして未来に戦没者慰霊祭を引き継ぎ、英霊の皆様へ「平和に暮らせています」と伝えることができるよう、私たちは国を守り平和な未来を築いていかなければなりません。

私は日本の悪いところも良いところも受け止め、国を存続させることが愛国心だと思っています。私たちは課された過去と未来をつなぐ架け橋という役割を果たさなければいけないと思います。私たちの今生きている時間も歴史の一部であることを忘れず、1人でも多くの若い世代の方々が戦争や慰霊について考える未来へ受け継ぐ。そして私は日本国民としての自信を持ち愛国心を持つて日々を過ごしていきます。

【佳作】

戦没者慰霊のあり方について

大学生 21歳 赤座 梨乃

私は大学のゼミでの靖国神社及び千鳥ヶ淵戦没者墓苑の見学を通して、戦争がいかに苦しいものだったのか痛いほど感じました。正直に言うと、大学のゼミに入る前までは一国民でありながらも、国に

(第五面につづく)

（第四面からつづく）
ついでに関心はあまりなく、戦争については「二度と起きてはいけないもの」という漠然な気持ちしか持っていないませんでした。しかしこれからの日本を考えるためには過去について学ぶ必要があるということを知り、そして実際に学ぶことで改めて考えさせられることがたくさんありました。自分と同じ年代の方々が国のために家族を置いて文字通り命をかけて戦ったことを知ったとき、とても胸が苦しくなりました。彼らは残された家族の幸福を願い、国のために命尽くす自身に誇りを持ち旅立たれました。

今の私には到底及ばないほど勇敢で立派なお姿だったと思います。そんな先人の方々のおかげで我々日本人は今生活が送れているのです。結婚も諦めて旅立ち、ろくに水も飲めないような今では考えられない状況を過ごしてきた彼らが私たちの今ある平和な暮らしを作ってくださいたのです。

今多くの国民が陥っているように先人の方々に目もくれず、今の生活を当たり前のように感じ、ありがたみも分からずに過ごすことはあまりにも無責任だと私は思います。私たちには今ある国のために戦ってくださった彼らに向き合う義務があるのです。しかし今の日本国民には国に対する関心が低い人が多いです。先ほども述べたように私もその一人でした。それはなぜかを考えたときに、学ぶ機会の少なさが問題だと思いました。学ぶ機会がないからこそ、過去と向き合うことへの価値や大切さがわからないのです。

今の私たちは学校教育の環境を変える必要があります。私は義務教育で「戦争は二度と起きてはいけない事」で止まるのではなく、その先のためになすべきか、どのように向き合うべきかまで考える場を与えるべきだと思います。そして実際に靖國神社や千鳥ヶ淵戦没

者墓苑を訪れ、彼らの魂と向き合うべきです。そうすれば多くの人が先人の方々をはじめ国と向き合うことの大切さを知り、そしてこの考えをこれからの世代にも受け継いでいくことができると思うからです。そのために私たち国民一人一人が選挙に行くなどして行動を起こすことで環境を変える努力をしていくべきだと思います。

靖國神社を見学させていただいたときに鎮靈社という戦争などで亡くなった外国の方々を慰霊するためのお社があることを知りました。このように自国だけでなく他国のことまで思いやるこの心は日本人の精神だと思います。そして私はこの精神が今を生きる私たちの心の中にもあると思っています。そんな私たちなら必ず今の環境を変え、より良い日本へと導くことができると信じています。私も今こうして生活できていること、それを作ってくださいた先人の方々への感謝や敬意を忘れず、一国民としてより良い国を作るための努力に励んでいきたいと思っています。

~~~~~

**終戦80年・第23回シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い**

8月23日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、シベリア抑留者支援センター（代表世話人・有光 健さん）主催の「終戦80年・第23回シベリア・モンゴル抑留犠牲者追悼の集い」が約180名の参加を得て開催された。

本追悼の集いは、献歌として「異国の丘」を古川精一さん（遺族、バリトン歌手）が独唱して始まり、全員による黙とうのち、主催者代表挨拶としてシベリア抑留者支援センター世話人の西倉勝さん（100歳）が「栄養失調、病氣、過酷な労働で、大部分の方が最初の冬を越せずに亡くなった。原因究明や責任の追及も放置されたままであり、課題解決に向

けて国民的な議論を求めます」と述べた。次いで、厚生労働大臣（代理 岡本利久審議官）及び各党代表国会議員が追悼の言葉を述べ、また、この間、衆参両議院議長からの弔電も紹介された。

シベリアで父を亡くした小嶋雄二さん（82歳）が遺族代表として「父が1946年に死亡したとの旧ソ連の資料が届いたのは2014年でした。戦後80年たっても戦後処理は終わっていない」と述べた。

最後に参列者全員による献花が行われ、厳粛な雰囲気の中に追悼の集いは終了した。

この追悼の集いは、スターリンが日本軍捕虜移送の秘密指令を出したとされる1945年8月23日を記憶に留めようと、毎年この日にシベリア抑留者支援センターが主催している。

厚生労働省によると、シベリアやモンゴルに抑留された約57万5千人のうち約5万5千人が抑留中に死亡した。

~~~~~

浄土真宗本願寺派（西本願寺）第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9月18日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において国会議員を含む来賓約60名及び門徒約1200名が参列して、浄土真宗本願寺派（西本願寺）主催「第45回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」が残暑の中、厳粛かつ盛大に執り行われた。

追悼法要の冒頭、宗門関係学校の生徒作文の朗読・表彰式が行われ、「いのちの尊さ」と「非戦・平和の大切さ」をテーマにした生徒作文の表彰と朗読が行われた。最優秀賞には、中学生の部で山

終戦80年募金

11,827,000円

累計（7年9月30日現在）

349,000円

（8月1日から9月30日の間）

☆募金された皆様（敬称略、順不同）

解脫会東京第一教区、日蓮宗宗務院、福代亮介、松崎勝正、沖田康宏、豊田 陸、松本義則、瀬井義公、室伏孝一、永井美弥、鈴木敬司、武井昭彦、角田正広、櫛部孝子、江田全男、江川健二、鈴木幸延、土屋禎子、反町佳生、原島 誠、古賀英松、山本勝久、山賀芳紀、渡部ヒサ、松井克彦、鶴川一彦、山根弘之、福島功二

（皆様のご芳志に篤く御礼を申し上げます）

終戦80年募金（継続）のお知らせ

終戦80年募金（千鳥ヶ淵戦没者墓苑のリニューアル（施設・設備等）等のための募金（継続））

・一口：個人5千円、団体3万円

・期間：令和6年7月1日から令和7年12月末日まで

・振込口座：郵便為替口座番号 00140-2-42556

・「終戦80年募金」と明記して下さい。

公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
理事長 保松 秀次郎



法要を勤める大谷門主

本麗菜さんの「戦争のない世界へ」、高校生の部で木津喜乃さんの「生きた証」がそれぞれ受賞した。

仏の教えが十方に響き渡ることを願って受賞生徒二人が平和の鐘を撞き、引き続き、園城義孝・浄土真宗本願寺派総長が「戦後80年にあたつての平和を願うメッセージ」を読み上げ、「過去を反省し、問い続け、私たちがいま何をなすことができるか、将来の世代に何を残していくかが大切である」主旨の法話を披露した。

追悼法要では、大谷光淳・浄土真宗本願寺派門主が三奉請、表白、回向を勤められ、最後に参列者全員で仏教讃歌を斉唱して終了した。

なお、本法要は、1981（昭和56）年から、先の大戦のきつかけの一つとなつた柳条湖事件の日（9月18日）に毎年開催している。

◎参拝団体（前項以外、敬称略、順不同）
熊本県遺族会、長崎県遺族代表団、全国強制抑留者協会埼玉県支部、8・15平和祈禱会、甲飛喇叭隊、喇叭保存会、喇叭伝承会、千代田区海洋少年団

◎清掃奉仕（敬称略、順不同）
トイレ清掃奉仕会、櫻晴れ清掃奉仕会、阿含宗清掃奉仕、千鳥ヶ淵戦没者墓苑清掃奉仕会、立正佼成会清掃奉仕

◎献花台奉仕者（敬称略、順不同）
古流茂風会（大藤茂風、鈴木泉風、田巻泰風、高橋里風）、国際華道如心流（新井礼心、鈴木淑峯、片桐喜心、吉見惠峯）、古流草翠流（野上映翠、林聖子、池田栄美子、安井史子、徳竹佳世子、関根和広）、松葉流古流（田中一秀、田中一桜、木村一恵、渡来一靖、美風池坊（小島美陽、西田栄舟、坂口美宝、齋藤美夕、小島能久）古流松瀬会（清水理弘、高橋理厚、井内理琴、榎木理興、米津理純、太田理芳）、遠州流一森会（名鏡一富、名鏡一玲、堀内さやか、森田百香、荻窪一成、倉石一青）、柴山古流・緑山流（井上冷美、本多冷花、富永冷倫、関口冷竜）、古流正華道（芦沢千啓、若谷千絵里、谷千裕希、岡田千瞳、中山実咲、今泉風琉、鼻田朱里）

令和7年9月30日までの受付分を掲載、10月1日以降の受付分は次号に掲載します。

立正佼成会

千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要

9月23日、当墓苑において、立正佼成会主催「第67回千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要」が教団役職者及び東京教区の会員約30名の参列のもと執り行われた。

本法要は、先の大戦をはじめ全ての戦争犠牲者に回向の誠を捧げ、平和の実現に向けて誓いを新たにすることである。

慰靈法要は導師である川本東京教区長による読経供養に始まり、次いで回向文が奏上され、平和への決意を披露した。

その後、焼香が行われ、最後に導師挨拶として川本東京教区長は、庭野会長の8月15日の戦争犠牲者慰霊・平和祈願の記事を引用し「今、世界各地で

命を落としている。人類一人一人が宇宙船地球号の乗組員なのだという気持ちになる事が大事であり、特に指導者がそのような気持ちになる事が一番早い平和への道である。私たちも微力ではあるが、世界の平和を願いながら、家庭の平和、家庭の安寧を目指し進んで行きたい。また、亡くなられた方々への思いを馳せると同時に、私たちが平和で安寧に生きられる世界にしていけることが、亡くなられた方々の喜びに繋がるのではないかと思う」と述べた。

立正佼成会は、当墓苑が昭和34年創建されて以来、毎年秋のお彼岸の中日に「千鳥ヶ淵戦没者慰霊法要」を開催している。



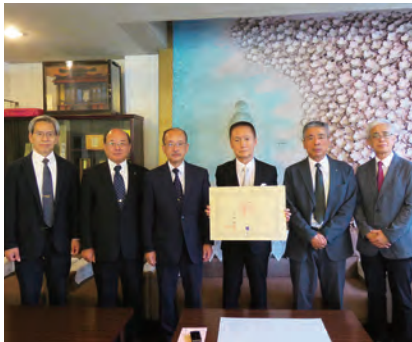
川本東京教区長（中央）による読経

「紺綬褒章」の受章

京都市在住の大浦夏樹氏は、(公財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会への多額のご寄附により「紺綬褒章」を令和7年7月30日、天皇陛下から授与された。当奉仕会が紺綬褒章の公益団体認定を令和4年9月20日に受けてから4人目の受章となった。

9月11日に墓苑事務所において奉仕会保松理事長から大浦氏へ同褒章の伝達が行われた。

紺綬褒章とは、国の褒章制度のひとつで、公益のために私財（個人であれば500万円以上、団体であれば1000万円以上）を寄附した方に授与される褒章。予め申し出た分納による寄附も含まれる。



受章に伴う記念写真

【訂正とお詫び】

本紙9月号に掲載した「紺綬褒章の受賞」の記事において、受賞者の渡邊榮三郎氏の苗字を「渡邊」と表記を誤りました。正しくは「渡邊」です。渡邊氏ご本人はじめ関係各位に心からお詫び申し上げます。

日英の防衛大臣、墓苑を参拜、献花

8月28日、中谷防衛大臣とヒーリー
英国防大臣は揃って千鳥ヶ淵戦没者墓苑
で参拝・献花を行い、戦没者を追悼した。
日英両大臣の来苑に際し、奉仕会保

松理事長が迎え、六角堂までご案内した。両大臣の参拝・献花後、同行されていたロングボトム駐日英国大使も交え幕前で記念写真を撮った。



献花に向かう日英両大臣



左から英国大使、英国防大臣、
防衛大臣、当会理事長

墓苑便り（奉仕会だより）

11
〜
12月の献花の予定

都古流一孝会

草月流

松南古流

東未生流

一 翠古流

池坊壺宮式

下村	内藤	高橋	水沼	高橋	内田
柳泉	理扇	良久	松志	一美山	一孝

● 終戦80年、令和7年度秋季慰霊祭

への御礼

多くのご来賓、会員の方々にはご多用の中、ご参列いただき感謝申し上げます。

また、東京都隊友会のボランティア（70名）の皆様には、受付、案内、司会進行、救護、及び駐車場統制等の重要な職務を行っていただきました。お陰様で無事慰霊祭を終了することができました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。


 一般財団法人
日本宝くじ協会
<https://jla-takarakuji.or.jp/>



この刊行物は、**宇くじ**[☆]の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。